

神明地域減災対策アンケート結果

(1) アンケートの目的

「神明（明石川等）地域総合治水推進計画」策定時（平成 26 年度）に、地域内の減災対策の実態を把握するために、消防関係や自治会を対象にアンケートを実施し、その結果をもとに推進計画の減災対策部分が構成されていた。今回、計画期間の 10 年が経過した時点における減災対策の実態の変化を把握するために、当時と同様のアンケートを実施した。

(2) アンケート調査概要

1) 対象

アンケート調査の対象者は、以下の組織のリーダーとした。

- ・神戸市：消防団、防災福祉コミュニティ
- ・明石市：消防関係（水防方面隊本部、8 方面隊）、自治会

2) 実施時期

令和 6 年 11 月下旬から令和 6 年 12 月中旬まで（未回答者への再調査（督促）含む）

3) 調査方法

対象団体の会長あてに郵送（返信用切手を貼った返信用封筒、「神明（明石川等）地域総合治水推進計画概要版（H27.3）」を同封）

(3) アンケートの回収状況

表 1 アンケートの回収状況（H26：参考）

対象		配布数	回収数	回収率(%)
神戸市	消防団	7	7	100.0
	防災福祉コミュニティ	30	25	83.3
	小計	37	32	86.5
明石市	消防関係	13	12	92.3
	自治会	29	21	72.4
	小計	42	33	78.6
合計		79	65	82.3

※推進計画（H27.3）に記載されているグラフは督促前の段階の結果。上の数字は督促後の最終結果。

表 2 アンケートの回収状況（R6：今回）

対象		配布数	回収数	回収率(%)
神戸市	消防団	7	6	85.7%
	防災福祉コミュニティ	30	20	66.7%
	小計	37	26	70.3%
明石市	消防関係	13	6	46.2%
	まちづくり協議会	28	21	75.0%
	小計	41	27	65.9%
所属不明		-	1	-
合計		78	54	69.2%

※1 組織減少のため、総配布数が前回より 1 件少ない

神明(明石川等)地域総合治水推進計画改定のための減災対策アンケート

問 1 貴団体の防災力を高めるためには、何が一番必要だと考えますか。ひとつ〇をしてください。

1. 住民の意識向上
2. リーダーの育成
3. 行政による指導、助言
4. 資機材の整備
5. 住民間のコミュニケーション向上
6. 行政による財政支援
7. 地域の事業所や商店との連携
8. 他の団体との連携
9. 防災専門家との連携
10. その他（ ）

問 2 貴団体において、河川の堤防決壊などの洪水による浸水発生の可能性がわかる「(河川) 洪水ハザードマップ」「(災害)ハザードマップ」「浸水実績図」などの名称の場合もあります)を、ご覧になりましたか。ひとつ 〇をしてください。

1. 細かいところまで詳しく見た
2. ざっと大まかだが見た
3. 少しは見た
4. そのような地図は見たことがない
5. そのような地図はない

問 3 今後5年のうちに、貴団体で、床上浸水のような大きな浸水被害が発生する危険性はどの程度あると思いますか。ひとつ 〇をしてください。

1. かなり危険性が高い
2. やや危険性が高い
3. 危険性は低い
4. 危険性はまったくない
5. わからない

問 4 貴団体では、次にあげるような水害に備えるための訓練（水防訓練）のうち、どれを実施していますか。国・県・市区主催の訓練への参加ないしは貴団体主催で実施している訓練を、すべてに○をしてください。

1. 情報伝達機器を操作する訓練
2. 河川や被害情報などの収集・分析訓練
3. 高い建物や避難場所に住民が避難する訓練
4. 住民による土のう作り
5. 浸水地区に取り残された住民を救助する訓練
6. ボートを使って人や物資などを搬送する訓練
7. 避難所での避難生活を想定した訓練
8. 炊き出し訓練
9. 応急救護訓練
10. 身体の弱い人やお年寄りを介護する訓練
11. 水害を想定した机上訓練や図上演習
12. その他（ ）
13. 以上のようなことは、ひとつもしていない

問 5 最近実施した水害に備えるための訓練（水防訓練）には、地区住民のうち、どれくらいの人に参加しましたか。国・県・市区、貴団体主催の訓練のいずれでも構いません。ひとつ○をしてください。

1. ほとんど全員が参加している
2. かなりの人が参加している
3. 約半分の人が参加している
4. 住民の参加者は半分に満たない
5. 参加者はほとんど役員だけ
6. 水防訓練は実施していない

問 6 長雨が続いたり、雨が強まったりして水害の危険が高まったとき、貴団体ではどのようなことをしますか。これまでの経験から、あてはまるものをいくつかも○をしてください。

1. 水害の危険がある地区や溪流、川、堤防、下水溝・管などを見回る
2. 気象情報に注意を払う
3. 市・区役所と連絡を取りあう
4. 役員同士で連絡を取りあう
5. 消防署に警戒するよう依頼し、連絡を取りあう
6. 危険だと判断すると、自主的に役員等が参集する
7. 上流や下流にあたる地区の雨量や川の水位の情報を集める
8. 危険があるところに、土のうを積んだり、補修などをする
9. 大切な物を高いところに移動する
10. 浸水が発生する可能性がある地区の住民の安否確認や、注意の呼びかけをする
11. 身体の弱い人や高齢者に注意を呼びかけたり、場合によっては避難誘導する
12. その他（ ）
13. 以上のようなことは、まったくしていない

問 7 貴団体が、自主的に洪水による浸水の危険がある地区の人に避難を呼びかけた場合、どのくらいの人が避難に応じてくれると思いますか。ひとつ○をしてください。

1. ほとんど全員が避難してくれるだろう
2. かなりの人が避難してくれるだろう
3. 半分くらいは避難してくれるだろう
4. 避難する人は少ないだろう
5. ほとんどの人が避難してくれないだろう
6. その他（ ）

問 8 その他、総合治水に関して、ご自由な意見について記入をお願いします。

最後に以下の設問にお答えください。

貴団体名

貴団体の構成人数 約（ ）人

あなたが当てはまる以下の項目についてすべて○をして下さい。

1. 貴団体の会長
2. 貴団体の防災担当の役員
3. 貴団体員
4. 災害ボランティア
5. ひょうご防災リーダー
6. その他（ ）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

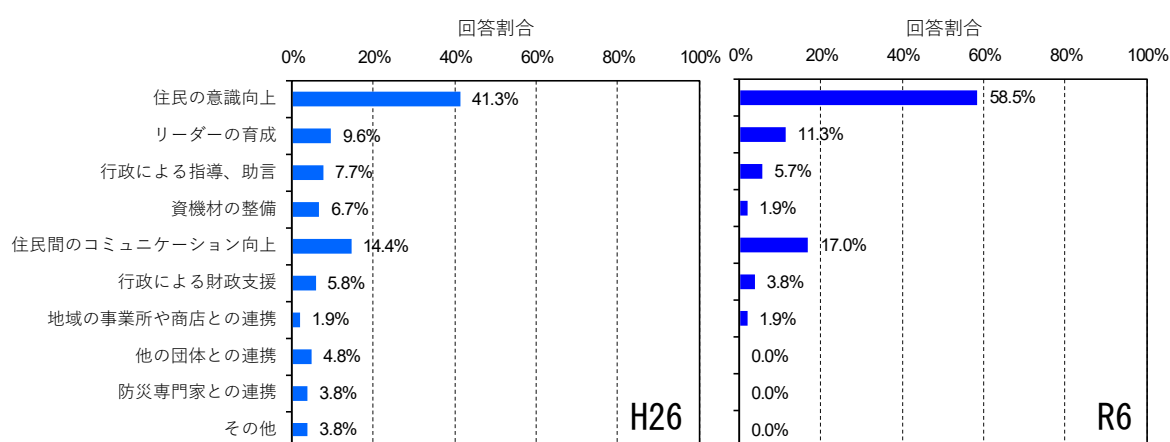
(5) アンケート結果

計画策定当時（H26）と現時点（R6）の減災対策の実態を比較した。

なお、H26 と R6 では回収票数が異なるため、比較できるように「回答割合」を算出し比較した。

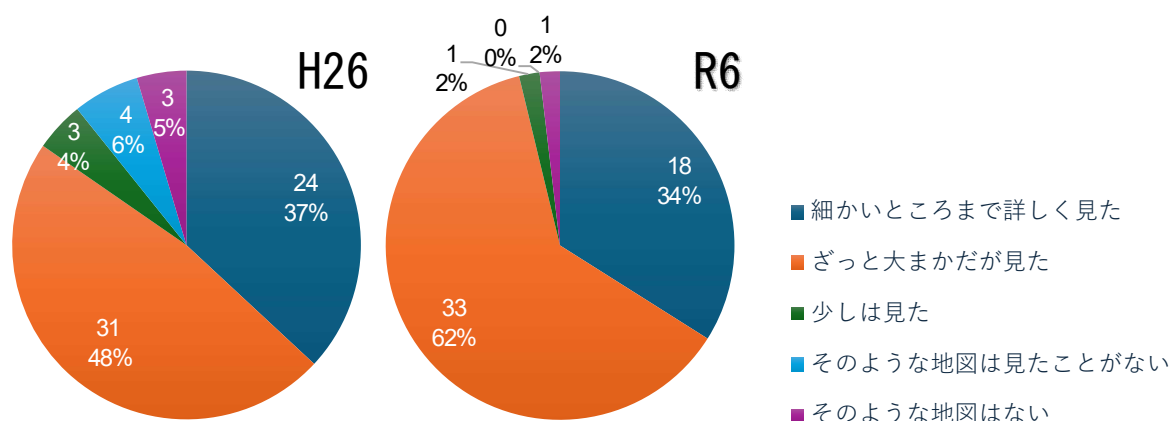
問 1 貴団体の防災力を高めるためには、何が一番必要だと考えますか。ひとつ〇をしてください。

防災力を高めるのに一番必要なものは、「住民の意識向上」という傾向は H26 と R6 で変わっていない。



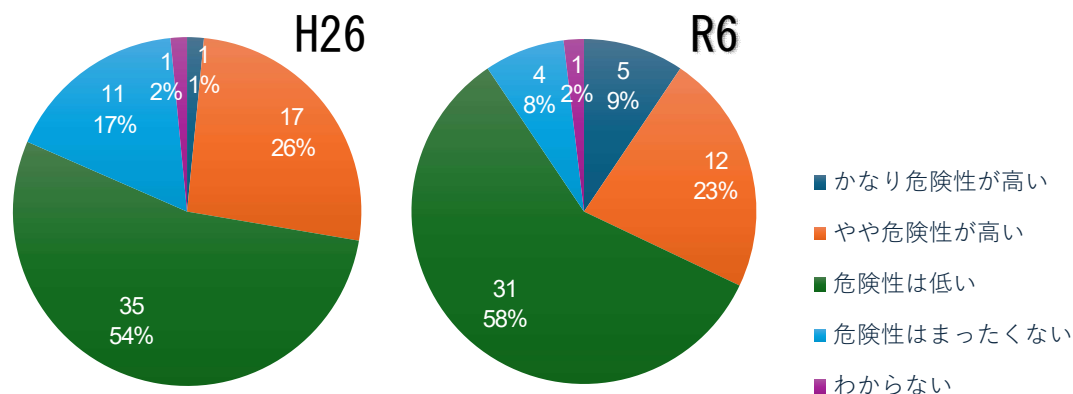
問 2 貴団体において、河川の堤防決壊などの洪水による浸水発生の可能性がわかる「(河川) 洪水ハザードマップ」「(災害) ハザードマップ」「浸水実績図」などの名称の場合もあります) をご覧になりましたか。ひとつ〇をしてください。

洪水ハザードマップを「細かいところまで詳しく見た」、「ざっと大まかだが見た」を合わせると H26 : 85%→R6 : 96%とハザードマップの認知度は向上していると考えられる。



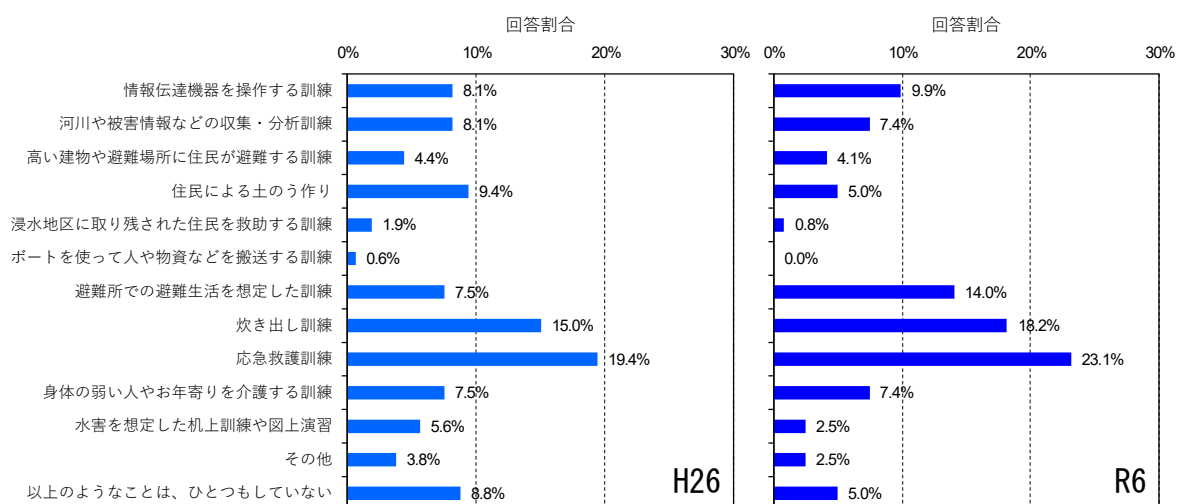
問 3 今後5年のうちに、貴団体で、床上浸水のような大きな浸水被害が発生する危険性はどの程度あると思いますか。ひとつ ○をしてください。

ハザードマップの認知度向上にあわせて、「危険性が高い」と認識する人の割合が H26：27% →R6：32%と高くなっている。



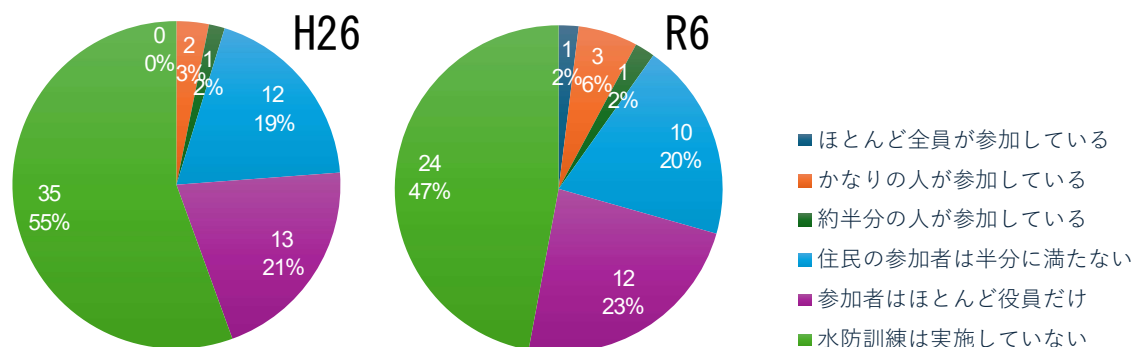
問 4 貴団体では、次にあげるような水害に備えるための訓練（水防訓練）のうち、どれを実施していますか。国・県・市区主催の訓練への参加ないしは貴団体主催で実施している訓練を、すべてに○をしてください。

訓練の内容は H26 と R6 で同様の傾向である。「応急救援訓練」、「炊き出し訓練」を実施している団体が多い。また、「避難所での避難生活を想定した訓練」が増えている。



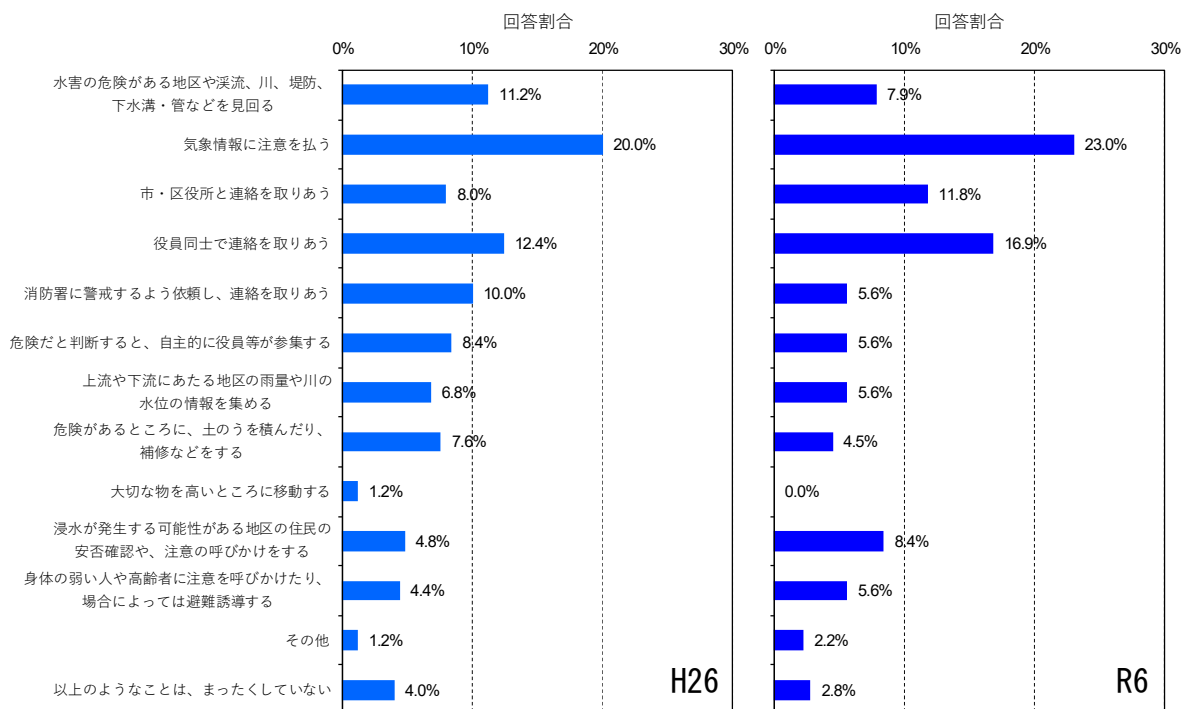
問5 最近実施した水害に備えるための訓練（水防訓練）には、地区住民のうち、どれくらいの人に参加しましたか。国・県・市区、貴団体主催の訓練のいずれでも構いません。ひとつ〇をしてください。

水防訓練を実施していない団体が H26：55%→R6：47%と少なくなり改善している。また、約半分以上の人が参加している団体が H26：5%→R6：10%と多くなり改善している。



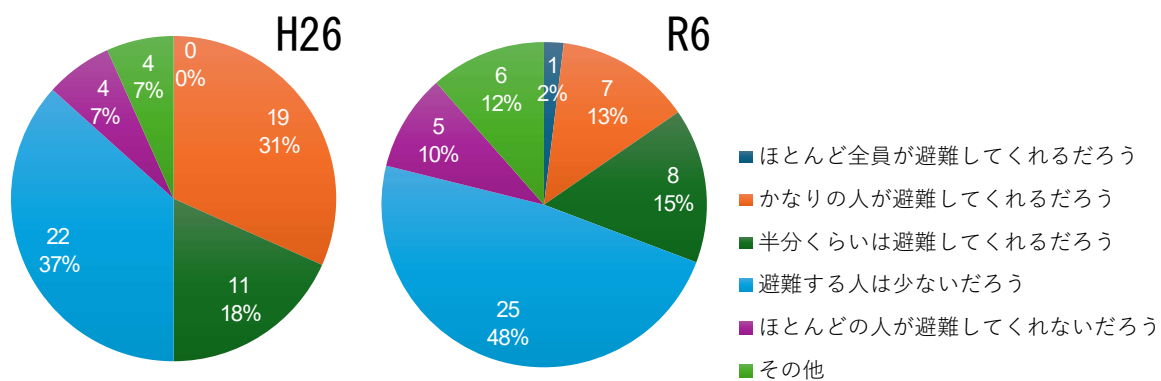
問6 雨が続きたり、雨が強まったりして水害の危険が高まったとき、貴団体ではどのようなことをしますか。これまでの経験から、あてはまるものをいくつでも〇をしてください。

水害の危険性が高まった場合の情報把握として、一般的な気象情報に頼っている傾向は H26 と R6 でほとんど変わっていない。



問 7 貴団体が、自主的に洪水による浸水の危険がある地区の人に避難を呼びかけた場合、どのくらいの人が避難に応じてくれると思いますか。ひとつ〇をしてください。

避難を呼びかけた場合「半分以上の人が避難するだろう」と回答した団体は H26：49%→R6：30%に減少しており、多くの団体が危機感を感じていることがわかる。

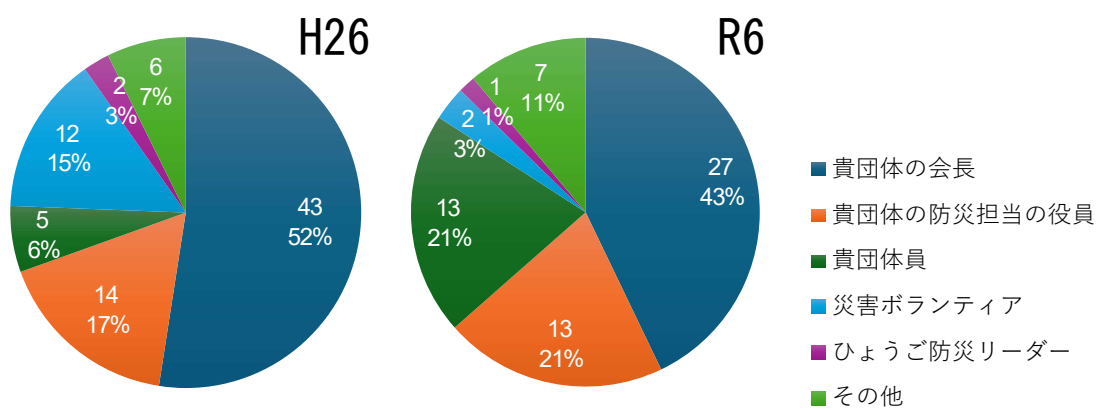


問 8 その他、総合治水に関して、ご自由な意見について記入をお願いします。

No.	組織	自由意見
神戸市		
1	神戸市西消防団伊川谷支団	山谷が住宅や工場となり、山の保水力の低下。畑が宅地となり同じく低下し、大雨時に短時間で河川が増水する現状の改善にも取り組む政策が必要不可欠である。河川や流域水路へ飛来物や流出物で水路が塞がれ、水の停滞に浸水にも注意と除去対策方法を検討しておく必要がある。(※原文ママ)
2	神戸市西消防団岩岡支団	地元では大きな河がなく、川による氾濫の危険性は少ないと考えているが、ため池が多く、ため池の決壊による被害の減少を考えていきたい。
3	長坂ふれあいのまちづくり協議会	私達の地域は、ほとんどが海拔 60m 以上に位置しています。水害による被害は少数の農村地帯をのぞいて無いと思うので住民の水害に対する意識は低いです。
4	井吹西ふれあいのまちづくり協議会	ハザードマップは確認するが、当地域全体が高台に位置していることから、真検にはみていなのが現在の立ち位置です。(※原文ママ)
5	神戸ハイテクパーク防災福祉コミュニティ	日本が亜熱帯化して雨のふる量や線状降水帯など今までおきなかった所で災害が発生するので何をどこまで普段からやっておくべき事なのかご指導いただきたい。(※原文ママ)
6	岩岡連合自治会（岩岡防災福祉コミュニティ）	山森等を開発した時に貯水池等を小さな開発でも作るようにする。
7	月が丘ふれあいのまちづくり協議会	明石川の水質汚染の件が一部新聞に報道されたが、その対策等について、特に連絡がない。明石川祭りなどで子供達が川に入るので、それらが解決したのか知らせて欲しい。
8	春日台防災防犯福祉コミュニティ	当地区では水害の危険度が低く、これを想定した訓練や資機材準備を行っていない。そのような地区に対する対応（物的、意識）、活動の提案を頂けるとありがたいです。
9	狩場台防災福祉コミュニティ	河川対策が重要と思います。参考資料を見ると河川対策の取り組み表では後期（H31～H35）継続となっているが、H36 以降は実施していないのでしょうか。
10	北山ふれあいのまちづくり協議会（防災部会）	浸水被害の危険性が比較的低い地域に住んでいるため、地域住民の関心は大雨による土砂災害の方が高いと思われます。よって今回のアンケート結果になりました。
11	玉津ふれあいのまちづくり協議会防災福祉コミュニティ	線状降水帯の発生による急激な増水に対する対応避難のタイミング住民への連絡。明石川伊川谷に囲まれ護岸より低い位置に多くの家がある。避難か待機かの境目を考えていきたい
12	神戸市西区美賀多台ふれ協内防コミ	整備済みの明石川をウォーキング中に観ますが、時の経過で植物/木が成長して、河道断面を小さくしている。その分、一瞬の流速が影響を受ける可能性がある気がします。又洪水時に、ゴミとなって流下する恐れもある。道路の街路樹をメンテする如く、河道内のメンテも継続する必要があるのでは。
13	出合防災福祉コミュニティ	減災対策に記載された①から④の内容を見ると、出合防災福祉コミュニティを構成する自治会として、具体的にどうしたらそれが実現できるのかが解らない。例えば私の自治会では自主防災組織等の活性化と記載されているが、組織そのものがない。流域に存在する自治会は、戸建てが多く、高齢の夫婦のみの世帯や独居の世帯も多く、中には要介護の必要な家族もいる状況であり組織化は難しい。また自宅から避難所まで遠いので、年 1 回の避難訓練をしても避難所に到達しない。このように何も出来ていない状況にある自治会に対して、県や市が総合治水計画をつくって①～④の対策について進めていく場合、どのように関わりを持ち、地域住民のために具体的な支援をして実現させていくのか。現状を考えると難しい課題が多すぎて理解できない。(原文ママ)
14	押部谷東ふれあいのまちづくり協議会	私たちの地域は、木津・木見・木幡・団地・県住・秋葉台で木津・木幡地区が裏山のガケくずれが大雨になると心配されます。過去 2 回ほど木津小学校に避難されています。地震と大雨時には注意しています。

No.	組織	自由意見
明石市		
15	明石市消防団	農地から宅地に変わって土からコンクリートやアスファルトに変わり水はけが悪く、上流の地域から下流の地域に水が流れ出ています。水害におけるまちづくり計画を考えてほしい。(過去に、上流の地域のため池等の氾濫のために水路を開き、下流の地域での被害があった。) 前もって水を流していくシステムがあればと思います。
16	朝霧校区まちづくり協議会	近年、防災減災の意識は高まっているが、水害の被害は極めて少ないと想定される地域であるため、水防に関しては意識が低い。
17	人丸まちづくり協議会	しゅんせつ、堤防強化、内水氾濫の知識の共有と該当地への対策、橋、道路、避難経路の整備
18	中崎まちづくりの会	ゲリラ豪雨による朝霧川での内水氾濫の浸水範囲の想定は難しい。まして住民への説明はかなり難しい。津波や河川氾濫などもっと詳細な研究データの公開を。津波等による避難計画については、分散避難による効果を高めるため、避難先の割り振りなどを研究・検討していきたいと考えています。(※原文ママ)
19	まちづくり大観地区協議会	治水整備がかなり進んでいるのであまり心配はしていないが、他の地域の出来事を知ると、やはりこれ以上に気を付けないといけないと思われる。
20	林校区まちづくり協議会	合流式下水道本管の増強(管径のアップ)、高浜川の暗渠化整備
21	貴崎校区まちづくり協議会	貴崎校区の場合、地形的にかなり高台になり、水害はほとんどなく、道路の一部が冠水するくらいで、水防に関しては意識は低い。
22	花園地区まちづくり協議会	当地域は高台にあり、ハザードマップの浸水地域に入っていない(※原文ママ)
23	藤江校区まちづくり協議会	藤江校区は高台に位置し、あまり水害についての災害は考えていないが、一ヶ所藤江川下流当りが危険箇所です。災害対策を考える必要があると考えている。当該自治会は消防団の活動が活発であることから消防団と自治会で事前に備えて頂いている。
24	鳥羽まちづくり協議会、上ノ丸町内会	伊川では集中豪雨があると増水して護岸をこえて土手の下まで達し、すぐに減水しています。調整できればいいのですが。
25	大久保町づくり協議会	問6、(問7)については、各自治会では実施しているが、大久保まちづくり協議会としては実施していない。
26	江井島まちづくり協議会	防災意識を持ってもらうことが課題ですが、真向からの取組みは人が集まりにくい。何かイベント的な実施と並行すると参加者が多い。
27	魚住まちづくり協議会	特にありません 大道池回収工事お世話になってます。(※原文ママ)
28	錦浦校区まちづくり協議会	特になし
29	二見小校区まちづくり協議会	全般的に防災意識が低い。
30	二見西まちづくり協議会	災害の少ない地域であることから、住民の意識向上が必要だと感じています。「大丈夫だろう～」から「もしものときには！」との意識啓発と体験をしたいと思います。

参考 アンケート回答者属性



以上